



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2004.6月号

平塚の空襲と戦災を記録する会編

「市民が探る平塚空襲」資料編（二）刊行



博物館で活動している「平塚の空襲と戦災を記録する会」により編集された「市民が探る平塚空襲」資料編（二）が刊行されました。

内容は二部構成で、Ⅰ部「大野町戦災者調査書八幡と被災状況復元地図」には、八幡・四之宮地区の空襲被災状況を一軒ごとに示した地図と八幡地区における戦争直後の生活状況を記した戦災者調査書を収載しました。戦災者調査書には、配給物資の不足を訴える苦情などが生々しく記され、終戦後の生活の苦悩をうかがい知ることができます。

Ⅱ部「第二海軍火薬廠 麻生中学学徒の動員日記」では、第二海軍火薬廠へ勤労働員された茨城県立麻生中学生の永峰光さん、須田三郎さん、金田要一さんの日記を収録しました。各日記には動員中の学徒の様子が克明に記され、学徒勤労働員の実態を知るうえで貴重な資料といえます。また、昭和20年（1945）7月16日の空襲で命を落とされた永峰光さんへの弔辞も収載しました。

既刊の資料編（一）とあわせ、皆様もぜひお手にとって、人々の暮らしと戦争とのかかわりを考えてみてはいかがでしょうか。

「市民が探る平塚空襲」資料編（二）目次

資料編（二）について

グラビア

Ⅰ 大野町戦災者調査書八幡と被災状況復元地図

八幡・四之宮地区被災状況復元地図

家屋番号表

「戦災者調査書八幡地区」について

Ⅱ 第二海軍火薬廠 麻生中学学徒の動員日記

永峰光日記

永峰光への弔辞

須田三郎日記

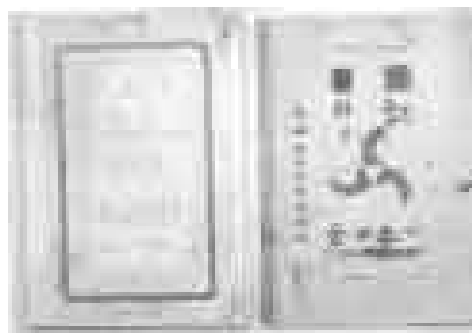
金田要一日記（一）

金田要一日記（二）

あとがき



須田三郎日記・永峰光日記



金田要一日記（一）・（二）

6月のプラネタリウム 投影番組がいろいろです。時間でお選びください

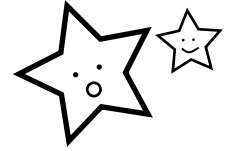
6～7月のプラネタリウムは、曜日、時間によって内容が変わります。お好みでご覧になる回をお選びください。
(いずれも当日の夜空の解説は行ないます)

*観覧料：100円（中学生以下は無料—受付にお申し出下さい） 投影時間：約45分

●一般投影 「金星が太陽面を通る」

122年ぶりとなる、6月8日の金星太陽面通過現象を解説します。

6月5日（土）14時、6月6日（日）11時、14時



●一般投影 「太陽の動き・星の動き」

6月19日～7月11日 土曜日（7月3日をのぞく）14時／日曜日 11時、14時

東の空に昇り、南を通り、西に沈む。この太陽の動きは、地球の自転によってもたらされているので、星も、動きは同じになります。ところが、星は北の空にもあり、その動きを他の方角と結びつけようとすると、ちょっと混乱してしまいますね。プラネタリウムで太陽と星の動きを見比べて、天体の動きを直感的に把握しましょう。小学校・中学校の理科学習の発展に最適な内容です。

●今月の星空

毎月第一土曜日、14時の投影では、一般投影のテーマに代えて、その月のおもな天文現象を紹介します。

6月5日（土）14:00「6月の天文現象」6月8日の金星太陽面通過など

7月3日（土）14:00「7月の天文現象」七夕など

●こども向け投影番組 「すいせいゴエモンのぼうけん」

幼稚園、保育園の団体が観覧しているプラネタリウム幼児向け投影を公開します。

遠いふるさとから太陽の近くへ、大きなほうき星に成長して行く、ゴエモンといっしょの宇宙旅行。

6月19日（土）、26日（土）、7月3日（土）、10日（土） 各11時

「自然と文化」27号が刊行されました

平塚市博物館の研究報告である「自然と文化」27号が刊行されました。

「自然と文化」は「相模川流域の自然と文化」をメインテーマとする博物館の調査・研究の成果を公開する場であるとともに、地域研究を進めている方々のための投稿の場ともなっています。本号には、館職員の報文のほかに、「みんなで調べよう」や「民俗探訪会」という市民の手による調査成果をまとめた報文も掲載されています。こうした市民調査により資料が収集され、それをもとに調査報告がまとめられ、それを活用していただければ、うれしく思います。

本号に掲載されている報文は以下の通りです。



- ・平塚市におけるセミの抜け殻調査（2003年の調査結果）
.....平塚市博物館「みんなで調べよう」
- ・平塚市におけるタンポポ類の分布（2003年の調査結果）
.....平塚市博物館「みんなで調べよう」
- ・平塚市における代表的なカタツムリ類の分布.....平塚市博物館「みんなで調べよう」
- ・中井町古怒田で発見されたモリアオガエル.....相原宗由・早野好孝・早野一郎
- ・相模川沖積低地（平塚市徳延）から産出した軟体動物化石.....森 慎一・鈴木 茂
- ・東丹沢に見られるタマネギ状風化の形成過程.....森 慎一
- ・2003年の太陽黒点.....鷹 宏道・沢村泰彦
- ・相模のまつり2003.....平塚市博物館民俗探訪会

幻の湘南火山帯—相模湾にあった火山はどこへ行ったか—

■富士火山帯

富士火山帯という言葉は誰でも知っていることでしょう。富士山から伊豆半島、伊豆諸島にかけて、箱根火山・湯河原火山・天城火山・伊豆大島・三宅島など、火山が列をなしているものをいいます。かつて学校で教わった、千島・那須・鳥海・富士・乗鞍・白山・霧島火山帯とう日本の火山を7つの火山帯に分ける言葉は、最近の自然科学では使われなくなり、現在の学校の教科書には載っていません。それは、プレートテクトニスの進展によって、こうした火山帯の区分には火山を作るマグマの成分や特徴が反映されているわけではなく、意味がないことが明らかになってきたからです。最近では、太平洋プレートの沈み込みによって生じる東日本火山帯と、フィリピン海プレートの沈み込みによる西日本火山帯とに二分されています。

■湘南火山帯とは？

ところで、この火山帯に関して、湘南火山帯という言葉があります。この湘南火山帯は、東京大学地震研究所の教授であった故松田時彦氏が1962年に提唱したものです。三浦半島や房総半島には、おびただしい大量の火山噴出物が地層中に挟まれており、火山から10km程にしか存在しないとされる火山豆石という特異な噴出物も何枚も含まれています。火山豆石は火山灰からなる豆状の噴出物で、噴火の際の雷雨などにより空中で形成されるといわれます。この三浦・房総にある火山噴出物の給源火山を、東京湾内に考えた人もいましたが、松田氏は、海底地形から相模湾内の沖ノ山付近と考え、湘南火山帯と名付けました。

その後、地質調査所の木村政昭氏は、相模湾の海底から火山岩（溶岩類）を採取して、1967年に公表

した相模湾の海底地質図の中で、湘南火山帯の火山の位置を示しました。一方、東京大学海洋研究所の藤岡換太郎氏は、この湘南火山帯を解明するため、相模湾内の火山と考えられた場所で、サンプルを採取しましたが、火山噴出物は見つかるものの、火山岩を見いだせませんでした。

■幻の湘南火山帯

三浦や房総半島にある厚い火山噴出物や火山豆石は、明らかにかつて湘南の相模湾内に、幻の湘南火山帯があったことを示すものなのです。大磯海岸に見られる大磯層も、同時期の地層で、同様な火山噴出物を多量に含んでいます。しかし、湘南火山帯の証拠を現在の相模湾内に見いだすことはできません。三浦や房総半島、大磯の地層は、かつての湘南火山帯近傍のフィリピン海プレート上に堆積したものが相模トラフというプレート境界を越えて本州側に付加したもののようですが、その供給源となった火山は付加せず、どこへ行ってしまったのでしょうか。

現在は、伊豆諸島に連なる火山帯を作っている伊豆弧は、かつてどこに位置していたのでしょうか。湘南火山帯はかつての古伊豆弧の火山帯として存在していたことは間違いありません。かつての火山近傍の海底に堆積した堆積物が本州に付加し、見ることができるのに、給源の火山体はそれと別行動をとって何故、相模トラフで沈み込んでしまったのでしょうか。丹沢は古伊豆弧の火山体が付加しているのに、そのメカニズムについていくつかの仮説が出されていますが、未だ、明らかになっていません。

博物館で行っている「相模川の生い立ちを探る会」では、そんなことを考えながら、各地の地層を観察しています。ご興味のある方は、ご入会ください。

（森 慎一）

参考文献 小川他（1992）月刊地球号外5号



3月の「相模川の生い立ちを探る会」で見た
房総・金谷海岸の火山豆石



講師をいただいた千葉県立中央博物館
高橋直樹氏の説明を聞く会員

博物館カレンダー

2004年6月の行事

6	2	水	社寺と祭を調べる会	特研究室
6	3	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
6	4	金	古文書講読会	講堂
6	5	土	相模川の生い立ちを探る会	野外
			☆プラネタリウム「6月の天文現象」	プラネ室
6	6	日	水辺の楽校生きもの調べの会	水辺の楽校
6	8	火	◎星を見る会	屋上
			天体観察会	屋上
6	9	水	全館燻蒸(～18日)	全館
6	10	木	石仏を調べる会	横内
6	12	土	◎漂着物を拾う会	虹ヶ浜
6	13	日	古代遺跡を探す会	野外
			地質調査会	野外
6	19	土	☆プラネタリウム「太陽の動き・星の動き(～7/11)」	プラネ室
			星まつりを調べる会	特研究室
			☆寄贈品コーナー「平塚の空襲と戦災(～7/29)」	展示室
6	20	日	みんなで調べよう	講堂
			民俗探訪会	科学教室
			◎ろばたばなし	展示室
6	24	木	石仏を調べる会	横内
6	25	金	古文書講読会	講堂
6	26	土	○自然の新聞を作る会	大磯町
			空襲と戦災を記録する会	特研究室
			民具に親しむ会	科学教室
			天体観察会	屋上
6	27	日	地質調査会	科学教室

<展示とプラネタリウム>

☆プラネタリウム

※本号2ページをご覧ください

☆寄贈品コーナー

「平塚の空襲と戦災」

会期：6月19日(土)～7月29日(木)

<参加者募集>

◎星を見る会

「金星の太陽面通過を見よう」

日時：6月8日(火)13時30分～18時

場所：博物館屋上

参加：自由

◎漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えます。

日時：6月12日(土)9時30分～11時

場所：平塚虹ヶ浜海岸

参加：自由(ただし、初めての方は往復はがきで申し込むこと)

2004年7月の行事

7	1	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
7	2	金	古文書講読会	講堂
7	3	土	☆プラネタリウム「7月の天文現象」	プラネ室
7	4	日	水辺の楽校生きもの調べの会	水辺の楽校
7	7	水	社寺と祭を調べる会	特研究室
7	8	木	☆プラネタリウム「学習投影(～7/9)」	プラネ室
			湘南コケの会	講堂・野外
			石仏を調べる会	特研究室
7	9	金	古文書講読会	講堂
7	10	土	◎漂着物を拾う会	虹ヶ浜
7	11	日	古代遺跡を探す会	野外
			地質調査会	科学教室
7	15	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
7	16	金	古文書講読会	講堂
7	17	土	☆プラネタリウム「天上の栄冠(仮題)ーギリシャ・アテナ星座英雄伝(～8/30)」	プラネ室
			☆夏期特別展「平塚の生きもの地図(～9/5)」	特展室
			天体観察会「学習会」	屋上
7	18	日	◎ろばたばなし	展示室
			民俗探訪会「三嶋神社例祭」	須賀
7	21	水	裏打ちの会	科学教室
7	22	木	植物誌調査会	野外
			石仏を調べる会	特研究室
7	24	土	空襲と戦災を記録する会	特別研究室
			民具に親しむ会	科学教室
7	25	日	相模川の生い立ちを探る会	野外
7	27	火	○体験学習「こども考古学クラブ」	野外
7	29	木	◎星を見る会「夏の星空」	屋上・科学室
			○体験学習「こども考古学クラブ」	科学教室
7	30	金	○体験学習「こども考古学クラブ」	科学教室
7	31	土	☆寄贈品コーナー民俗(～9/10)	展示室
			星まつりを調べる会	特研究室
			地質調査会	野外

☆：展示(無料)、プラネタリウム(観覧料) ○：申込制 ◎：自由参加 無印：年間会員制

◎ろばたばなし

民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。

日時：6月20日(日)(1)13時20分～(2)15時～

場所：展示室民家

参加：自由

○自然の新聞を作る会

「アオバトを見る」

日時：6月26日(土)9時～12時

場所：大磯町照ヶ崎

申込：往復はがきで6月15日(火)までに申し込む

※6月9日(水)～6月18日(金)の期間は、全館燻蒸のため博物館は休館します。

あなたと博物館 30巻3号 通算330号 発行 平塚市博物館 2500

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail:muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>